

視察報告書

調査・研究テーマ	浦和まちづくりビジョンの策定、庁舎建替え計画等、浦和のまちづくりのために歴史から学ぶ
目的	浦和のまちの成り立ちや編成を知る
内容	<p>日時:2021年12月21日(火)10:00~11:00 視察先:さいたま市浦和博物館 説明者: 同館長 磨田 謙 氏 参加者:添野ふみ子、高柳 俊哉、三神 尊志、冨田かおり、 佐伯加寿美、出雲 圭子、松本 翔 報告書作成者:出雲 圭子</p> 
概要	<p>現在、さいたま市議会では、庁舎建替え計画、浦和まちづくりビジョンの策定等、浦和のまちづくりの根幹にかかわる議論が行われている。その議論に資する知見を得るべく、浦和の歴史について、学ぶために浦和博物館にて視察を行った。</p>

概要

・浦和のまちの成り立ち

浦和の中心市街地は江戸時代の浦和宿から発展してきた。浦和宿は主に農業、旅籠、茶店などの商売を営み、中山道沿いでは店・屋敷、その裏が田畑や林になっていた。

なお、与野宿は流通の拠点として発展し、江戸時代は浦和宿、大宮宿より戸数も多かった。

県庁は1869(明治2)年に置かれてから移動をしていない。

・現在の市庁舎所在地の変遷

現庁舎地に移転する前は、現在のパインズホテルに市庁舎は位置しており、現庁舎地には1900(明治33)年から1966(昭和41)年までの間、埼玉県師範学校が位置していた。

・文教都市成立の経緯

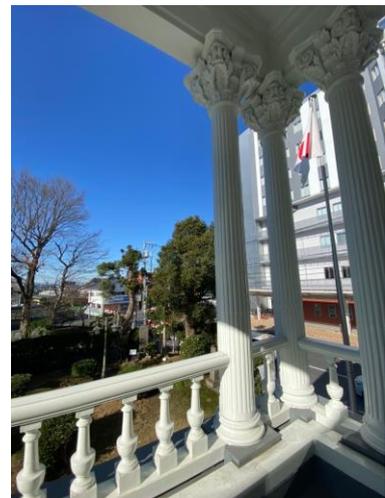
約150年前の近代教育制度の導入に伴い、浦和に埼玉県師範学校が設置され、周辺には、浦和高等女学校、女子師範学校、埼玉県立浦和中学校、浦和高等学校など多数の学校が設置される

ことになり、他地域に比べると浦和には教育機関が多数設置されたことが、文教都市へとつながったと考えられる。

現在の埼玉会館は、当初は明治天皇の行在所→埼玉県師範学校→埼玉県女子師範学校→埼玉県立図書館→埼玉会館と移り変わっていく。

埼玉のサッカーについても、1908(明治41)年に師範学校の細木史郎教師が蹴球部を創部され、その卒業生たちが県内の学校へ伝導していき、今日のスポーツの発展につながっている。浦和レッズダイヤモンドのエンブレムには鳳翔閣がデザインされている。

現在の浦和博物館は、1878(明治11)年に2代目の埼玉県師範学校(鳳翔閣)の校舎として設立され、その後、浦和高等女学校、女子師範学校、県立図書館と利用されてきたのち、バルコニーとして復元、使用されている。



<p>所見 ・ 成果</p>	<p>庁舎建替え計画、浦和まちづくりビジョンの策定等、浦和のまちづくりを考えていく上で、宿場町から文教都市と言われるまでの成り立ちや浦和画家の由来などを含め歴史の面から浦和地区の特色を知ることができた。</p> <p>浦和博物館で購入した書籍4冊「第36回特別展 絵図の世界～描かれた拝見をさぐる～」 「第29回 企画展 さいたま近代教育の幕開け」 「さいたま市指定有形文化財 浦和宿絵図」 「ウォーク・イン・中山道浦和宿 改訂版」は、今後の浦和のまちづくりのあり方について議論を深めていく上の参考とする。</p> <p>今回の視察で得た知見を参考とし、一般質問や議案審査などに活用していく。</p>
<p>基本政策</p>	<p>3、持続可能な行財政運営とコンプライアンスの徹底 6、生涯に渡って学びたいときに学べる場の提供</p>
<p>※書籍購入 4冊</p>	